

首都圏増田会だより

28

[横手市]

“望郷の想い厚く 我が増田町”

《 その未来 ふるさと やっぱり 首都圏増田会 》



天ヶ台越しに麗峰鳥海山を望む

『まんさくの花』は4枚の花弁をつけていることから別名「四恩の花」

と呼ばれています。父の恩、母の恩、師の恩、ふるさとへの恩を

友と共に、故郷の銘酒「まんさくの花」を飲んで大恩に感謝しませんか。

(日の丸醸造(株)の資料より)

地酒、田舎の味覚に舌鼓、仲間と会い明日への活力にする、増田会へ。

心をこめて、晩秋の一日を、おもてなします。

皆さんで築く首都圏増田会をめざして仲間と、役員一同で待っています。

11月17日(日)首都圏増田会へ。

春は必ずやってくる

首都圏増田会副会長兼幹事長

細野 芳之助



首

都圏増田会の幹事長になってから早くも13年になろうとしています。会員のご要望にお応えしようと色んなことを考え提案等もしてきましたが、これからもおおいに役員の皆様と出来る行事を検討しながら会員の皆様に納得し協力いただいて、今年は巳年でありますので今までにない試みを持って増田会の発展に努めたいと思っております。故郷が大豪雪に見舞われた2月中旬に横手市ふるさと会交流会が横手市で

開催され佐藤章会長の代理で参加してまいりました。情報交換会の中で中村美津子(キングレコード)、増位山太志郎(テイチクエンタティメント)から新曲「夢の花咲かそう」が発売され、そのCDジャケットを飾るのは、横手市十文字町の園芸農家羽川興助さんが開発した横手産、新種ダリヤ「夢の花」です。今後この歌を是非年越しの「NHK紅白歌合戦」に選ばれるように横手市としては、各ふるさと会の皆様に

是非応援をお願い致しますとのご報告を受けました。私が故郷に雪の多い時に来たのは20数年ぶりに成ります。真っ白な真綿のような雪を見ておりますと、少年時代のことが昨日のように懐かしく脳裏に浮かびます。春になると露の臺が雪解けの隙間に芽を出して春が来たよと教えてくれ、その露の臺を食卓で食べた味は長い冬が終わったんだなと心のちから思いこれからは、多くの山菜が食卓を賑わすようになるのが楽しくて楽しくて毎日土の香りを楽しみながら走り回っていたことを思い出しました。今回の情報交換の中で各ふるさと会の会長と各地域局の担当者による横手市の情報を受けて参

考にしながら今後とも増田会の発展に努めて行きたいと思っております。会員各位の皆様ご協力とご支援に感謝するとともに是非新会員を一人でも多くご紹介いただければ幸いに存じます。今後とも会員の皆様と楽しい故郷「首都圏増田会」を続けて行きたいと思っております。今年もよろしく願いいたします。

中村美津子・増位山太志郎
人生の応援歌

●新曲「夢の花咲かそう」が発売されました。横手市産の新種ダリヤ「夢の花」をモチーフにしたジャケットが美しいCDです。●「夢の花咲かそう」は、横手市産の新種ダリヤ「夢の花」をモチーフにしたジャケットが美しいCDです。●「夢の花咲かそう」は、横手市産の新種ダリヤ「夢の花」をモチーフにしたジャケットが美しいCDです。

第27回総会

故郷の小学校校歌の渦に楽しく揺れた増田会

音

楽は、世界の共通語、歌を通じて心が一つになれます。一人一人の心中に感動を与えてくれるのです。今回の第27回首都圏増田会総会での小松田茂先生のミニコンサートでした。タイトルはあの日歌った「あの歌、この歌」ステキなテノールの声で「ふるさと」の曲が流れて歌を聞きながらふるさとの山々を思い浮べ、

小さい時に家の近くで遊んだ小川や田んぼ懐かしい風景が50年前にタイムスリップしたような不思議な郷愁にかられ本当に懐かしい一時をすごさせて頂きました。やはり小松田先生ご自身が横手市出身という事もあって「ふるさと」への思いを強められたのだと思います。そして地元小学校校歌もふくめて余7曲歌って下さり

素晴らしいミニコンサートになりました。本当に有り難うございました。そして何ととっても増田会の名物は芋の子汁。いつも総会の前日から準備をして下さり参加する皆さんに喜んでもらいたいの思いで一生懸命で作ってくれている増田地域生活研究グループのお姉様達、本当に何時も有り難うございます。最後は参加者全員でふるさとを大合唱、おみやげを一杯持つてチョット、フラフラして又来

年も会いましょうねと！声をかけ合い満面の笑みで三々五々帰って行かれました。今回も賑やかに楽しく開催することができ皆様に感謝しています。有り難うございました。お身体に気をつけて次回も賑やかで楽しい会にすることを心がけると共に一人でも多くの方が参加されることを願います。

【岩田幸子記】

「首都圏増田会」総会に出席して

佐藤 誠さん
東京都在住「真人出身」



第27回首都圏増田会の総会に出席し、いつものペース

で総会の開会の言葉から総会の閉会の言葉まで淡々と経過し、次に乾杯かと考えた時に小松田茂氏のミニコンサートあの歌この歌が始まった。会場が一挙に盛り上りを見せたのは、旧増田町立小学校校歌であった、私の友人達も増田小、亀田小、私自身は西成瀬小出身であり自分の出身校のときは校歌を口ずさんでいた。驚いたのはその後殆どの人達の目が潤んだ涙目になっていた事である。63年前から歌った事のない小学校の校歌を、しかもプロの歌手で聴くことが出来たのだ。このミニコンサートを企画した増田会の企

画担当者に拍手を贈りたい。私は体調を崩し3年振りの出席であつたが、かなりのヒット企画だと思われる。それが証拠に総会終了後駅まで歩いて帰る途中この校歌の話題ばかりであつた。ただ小松田氏が言っていた増田東小とはどこにあつたのか？（小栗山小）誰も知らなかったのは皆記憶が薄れてしまったのか。因みに仲間は76歳の後期高齢者である。次回も是非友人を誘い参加したいと思う。

増田の母親を案じながら

佐藤 壽さん
東京都在住「上町出身」



今年は何年にもなく寒い冬だ。正月も大雪で帰省することができず、一人住いの母親と電話で話すのは雪下ろしなど雪対策の事ばかり。心配だ

がどうにもならず、知り合いの方のご支援を頼むばかりで申し訳ない。春の雪解けが待ち遠しい。東京周辺に住む増田小、中学校の同級生の10人余りと年に3回交流を行っている。もう10年余りになる。正月に埼玉県吉川駅前の温泉、4月に桜見物、10月に河原で芋煮会をするのが慣例になっている。小野寺房夫君が中心になってメンバーに声を掛けて集まる。酒を酌み交わしながらワイワイと子供の頃の他愛のない話を語りあう。一日童心に戻って日頃のストレスを解消し、お互いに元気に暮らしている事を確認しながら故郷を懐かしむ。ガキの頃から

の知り合いだからお互いに余計な遠慮は無く屈託がない楽しい時間だ。帰り際には皆でラーメンを食べて別れる。これからも身体が続く限り参加したいと思っている。テレビの気象情報が今後も大雪が続

きそうだと伝えている。母親にまた電話して元気づけなければと思う。妻との二人暮らしも数年たった。家を出た子供や孫が元気である事を祈る。増田会の皆様もつつがなくお過ごし下さい。ご健康をお祈り申し上げます。

私の知っている増田町

齋藤 絵美さん
（齋藤達夫さんの娘）
千葉県在住「八木出身」



私の父は増田町で育つたため、私が幼い頃はよく遊びに連れていってもらいました。幼い頃の記憶であまり覚えていないのですが、山や川がある自然豊かな町だという記憶があります。釣りをしたり、かまぐらを作ったり楽しい写真を見ながら父がよく増田町の話をしてくれました。



昨年の総会の様子

昨年初めて増田会に参加させて頂き、毎年素敵な会が有るオケ大会など、とても楽しく参加出来ました。増田会を盛り上げようと皆に活気があり、若々しく、増田町は良い町だと思いました。機会がなく10年以上訪れていませんが、また久し振りに増田を訪れたいと思いました。これから益々増田町や増田会が発展することを祈っています。

厚木市・横手市小学生交流会

2月9日から11日の3日間、『厚木市・横手市小学生交流会』が、釣りキチ三平の里体験学習館（小栗山）で行われました。

神奈川県厚木市との交流会は、自分たちの地域では味わえない文化に触れ友好を深めようと、1年おきにお互いの市を訪問して行われ、今年で27回目。参加者は雪遊びや雪像作り、狙半内の『幻灯』を見学して雪国体験を楽しみました。厚木市の中西智也君は「そり遊びが一番楽しかった。幻灯もきれいで良い思い出になりました」と話し、横手の子どもたちと交流を深めていました。（市報・平成25年3月1号より）



横手市増田民俗芸能フェスティバル

12月2日、民俗芸能の保存継承に対する意識を高めようと、増田地域センター運営協議会が主催する『民俗芸能フェスティバル』が増田ふれあいプラザで行われました。

10回目となる今回は、東日本大震災に遭われた各地の民俗芸能の一日も早い復活を願い、岩手県から虎舞（釜石市）や早池峰・大償神楽（花巻市）を招待し、東日本復興祈念と位置づけ開催。増田地域に伝わる八木番楽や福嶋サイサイ囃子、戸波郷土芸能、市内の鍋倉囃子、仁井田番楽も出演し、勇壮な舞やお囃子を披露しました。（市報・平成24年12月15号より）



全日本元祖たらいこぎ選手権大会

8月16日、増田地域の恒例行事『全日本元祖たらいこぎ選手権大会』が真人公園内の公園沼で行われました。

遠くは大分県など県内外から、子ども・中学生以上の男女・団体の各部門に145人が参加し、42,195メートル先のゴールを目指しました。水しぶきをあげ豪快に進む選手やバランスを崩して転覆する選手など、好・珍プレーが続出。東京から参加した小学5年生の永作直也君は「バランスを取るのが難しかったです。来年も参加してもっといい結果を出したいです」と話してくれました。（市報・平成24年9月1号より）



1 増田盆おどり

8月16日、秋田音頭の軽妙な地口にのり、笹かぶりの装いで、華麗な踊りが操り広げられました。

2 第89回増田の花火

9月14日、増田町八木川原で約5千発の花火が打ち上げられ、秋の夜空を彩りました。

3 元祖さるはんない幻灯

2月9・10日、狙半内地区で行われた幻灯は、訪れた人を優しい光で包みました。

4 三所神社梵天まつり

2月17日、商売繁盛や五穀豊穡などを祈願し、増田の三所神社梵天まつりが行われました。





写真左上／
吉乃鉾山熊ノ
沢鉾床跡を見
学。



写真左中／
伝統の増田朝
市を見学。

写真左下／
奥山勝榮さん
(上畑)からワ
ラビ採りのコツ
を伝授。



写真右上／
真人公園を散
策する参加者。



写真右下／
季子 和春さん
(吉野)の案内
で吉乃鉾山を
見学。



真人公園散策、旧吉乃鉾山や
伝統の朝市
の見学、
メインとな
る外畑牧場
(上畑地
区)でのワ
ラビ採り体
験、伝建地

ふるさと増田で 役員会を開催

6月8日～10日、ふるさと
増田で首都圏増田会役
員会を開催しました。参加者は
12名。来年間開催予定の首都圏ふ
るさと連絡協議会(旧八市町村
のふるさと会で構成)「ふるさと
と探訪ツアー」の当番会となる
ため、増田での見学箇所・体験
メニューなどを確認するため
地元で役員会を開いたもので
す。

区予定の増田の町並みや内蔵
見学などを時間配分を考慮し
ながら体験してみました。

ワラビ採り体験の昼食時に
は、地元のお母さんたち手作りの
「クジラかやき」やバーベ
キューも堪能し、宿泊先の上畑
温泉さわらびを会場に地元の
人たちと盛大な「交流会」も開
催しました。

増田はいろんな観光素材・
体験素材が実に豊富なことを
再発見し、増田だけでのんびり
過ごすことが十分可能だと感
じてきました。連絡協議会の
「ふるさと探訪ツアー」を成功
させたのには、増田会の会員
向けのふるさと訪問ツアーを
ぜひ企画したいものと考えて
おります。

短時間でこの収穫成果。



広大な外畑牧場での
ワラビ採り体験。



写真左上／
昼食はクジラか
やきなど田舎の
味を堪能。



写真左下／
多くの地元の方
との交流会。

増田を伝統的建造物群 保存地区に指定。 国の「重伝建」 選定申し出へ。

横手市は7月1日付けで、「古い町並みや内蔵」で知られる中七日町通りを中心とする10.6ヘクタールを、伝統的建造物群保存地区に指定しました。これにともない一帯では、保存計画に基づいた新たなまちづくりが進め



伝統的建造物群保存地区に指定された中七日町通りの町並み。

られています。市は近く国へ重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）への選定を申し出ます。現在国の重伝建に選定されているのは、岡山県倉敷市、岐阜県高山市・白川村、石川県金沢市、埼玉県川越市など104地区であり、増田地区が選ばれれば、秋田県内では仙北市角館の武家屋敷通り（1976年選定）に続き2例目となります。

て榮え、主に明治から昭和初期にかけて建てられた古い家屋が多く残っており、保存地区には、その大半が含まれています。切妻造妻入、正面に下屋庇を持つ商家建築を主とする伝統的主屋が道路に沿って並び歴史的町並みを形成しており、家の内部に蔵を構える「内蔵」も多く残っています。



所有者の一部がこれらの建物を公開しており、近年観光客が増加しています。保存地区では、建物を修理・復原したり樹木を伐採したりする際に市の事前許可が必要となっています。また、景観に統一感を出すため、屋外広告にも制限が設けられています。これらの制限事項や保存地区の歴史的特性については、保存計画に詳

しく記載されています。

この保存計画は、歴史的町並みを共有財産として保存し、地域の振興に生かすことが目的です。現在の町並みが形成された歴史的背景や、内蔵や主屋など建造物の特性を記し、修理の基準や防災対策をはじめ保存の方向性を打ち出しています。

五十嵐忠悦市長は「住民が住み続けながら、歴史ある町並みを将来にわたり保存する仕組みを整え、支援したい」と述べています。

地元住民で4月に発足した「増田まちなみ保存会」の佐藤又六会長（中町）は「息の長い取り組みが始まる。皆で相談しながら、地域に合った景観や町並みを徐々につくっていききたい」と話しています。

増田「蔵の日」

平成25年 10月27日(日)

第8回を数える「増田蔵の日」イベントが10月27日(日)に増田町中七日町くらしつくロードで開かれます。古い町並みや豪華な内蔵などを目当てに年々観光客が増えているイベントで、今回は歴史的建造物23棟が特別に公開される予定です。

また建物の公開に加え、地産食材の販売、明治期の押絵展やつるし雛展、お茶席、吹奏楽などの蔵ライブなどの催しも多彩です。

共通見学料500円で、普段非公開の建物も一部見学可。ぜひこの機会にふるさと増田を訪れ、商家町のまちなみと蔵史（くらし）を散策してみてもいいでしょうか。

■見学時間

午前9時～午後4時

■問い合わせ先

増田蔵の日実行委員会
増田観光物産センター
「蔵の駅」内

Tel 0182(45)5311

お願い ― 連絡 ―

事務局より

市町村合併後、市当局からの支援金が大幅に削減されてしまいました。つきましては増田会として、やむをえず次のようにしました。

過去5年間、会費が未納の方

総会の案内及び増田会だよりの郵送を中止することにしました。ただし、総会への参加は構いませんので一人でも多くの方々の参加を期待しています。皆様のご理解の程をお願い申し上げます。

平成24年度首都圏増田会収支報告

平成24.11.18現在

首都圏増田会の平成24年度の収支決算がまとまりました。その内容は下記のとおりです。

【収入の部】		※「比較」欄は予算との比較	
項 目	金額(円)	比 較	説 明
前年度繰越金	791,656	0	
年 会 費	397,480	▲2,520	手数料差引後
総 会 費	776,000	▲24,000	97 人
総会ご祝儀等	331,000	31,000	総会祝儀、広告収入
横手市補助金	270,000	0	首都圏増田会補助金
預 金 利 子	89	▲61	
合 計	2,566,225	4,419	

【支出の部】		※「比較」欄は予算との比較	
項 目	金額(円)	比 較	説 明
総 会 費	1,181,896	▲81,896	会場料、宴会費用ほか
通 信 費	73,330	26,670	総会案内状ほか
会 議 費	225,597	▲25,597	役員会ほか3回
在京ふるさと会	192,000	8,000	各ふるさと会会費
慶 弔 費	20,000	10,000	佐藤武男氏、上畑同窓会
事 務 費	14,430	15,570	事務消耗品
事業部活動費	10,000	60,000	役員研修広報部活動費
振込み手数料	2,520	▲420	銀行経由
広 告 費	60,000	20,000	増田の花火協賛金ほか
積 立 金	0	300,000	30 周年積立金
予 備 費	0	449,706	
合 計	1,779,773	782,033	

収支差引残金 786,452 円は翌年度へ繰越

第28回首都圏増田会総会

■期日 11月17日(日)午前11:30～
■場所 オーラム(昨年と同じ場所です)
住所 東京都台東区東上野 1-26-2
電話 03-5812-1123

会費 8,000 円

※参加者全員が着席できるように準備しています。

募集しています

写真募集 首都圏増田会広報部より

広報部では「増田会だより」の表紙に載せる増田会にふさわしく、増田に関する郷土の風景、行事、心に残る写真をお持ちの方かおりましたら、是非写真の提供をお願いします。

■提出先：広報部長 阿部照子

広告協賛募集 首都圏増田会総務部より

総会資料に掲載する広告を募集しています。1口(名刺判)3,000円となります。希望される方は伝票の通信欄にその旨をご記入いただき、会費と一緒に納入してください。

会費の納入はお早めに

事務局より

当会の事業・運営は会員の皆様の会費によって賄われていますが、最近会費の納入が遅れたり、未納となる会員の方が出ています。健全会計維持のためにも、納入はお早めをお願いします。なお、未納の方には次回より案内状、たより等の送付はしないこととします。また、転居された方をご存じの方は増田地域局・地域振興課へお知らせください。

■連絡先：秋田県横手市増田町増田字土肥館
173番地 / 電話 0182-45-5510

◆会 費 年額2,000円

◆納入期限 平成25年10月10日

※払込伝票の通信欄は、会員紹介、増田会に対するご意見などを自由に記入ください。